

1-3. 「地研連」から「伊研協」へ

「飯田下伊那地域研究団体連絡協議会」の発足から10年、主に年一回のシンポジウムを着実に実行してきた。この間、地域社会は高度経済成長を経験し、いわゆる「失われた10年」を経て大きく変貌した。少子高齢化現象が様々な場で顕著になり若者の姿が消えつつあった。飯田下伊那の各研究団体も例外でなく、会員の高齢化が進む一方、新人入会者が得られないまま、組織活動が停滞していった。この結果、各研究団体やまたその連絡組織である地研連のあり方が改めて問い直されるようになった。

それまで、伊那谷の自然・歴史・文化について、個人や団体によって明らかにされた貴重な学術研究の成果は枚挙に暇がない。しかし、これからの伊那谷を考えると、最も重要なことは、地域研究によって得られた貴重な調査結果や研究成果が地域に浸透し活かされていくことである。そこで、平成17(2005)年、組織のあり方を見直すべく「地研連検討委員会」発足させ、アンケートをとりSWOT分析を試みるなど、その他の検討を繰り返した。

その結果、地研連の改組を行い、名称の変更や会の活動方針を改めることが必要であるという結論に達した。そして、より広い視野とより強いまとまりをもった組織横断的な研究団体として生まれ変わることを決意し、その目的と目標を定め、またその研究方法論を定め活動していくことになった。

これを機に、名称を「伊那谷研究団体協議会」(略称「伊研協」)と改め、下記のとおり目標を掲げて活動を展開することを決定した。

「伊研協」の存在意義

- ① 伊那谷を代表する学術研究団体であること。
- ② 参加各研究団体の活性化と団体間の交流が活発化すること。
- ③ 地域の学術的・文化的思考能力の向上に寄与すること。

「伊研協」の活動概要

- ① 『伊那谷学』の構築を進め、『伊那谷まるごと博物館』を目指す。
- ③ 団体や個人の研究成果を地域に活かし、地域を育むことに貢献する。
- ④ 学校や行政等との連携を図り、各研究団体への新しい世代の参加を進める。
- ⑤ 社会教育・学校教育の場への参加に努める。